

## 歴史ウォーク（加西市探訪）

東播支部 石田支部長以下23名（会員家族2名を含む）は、令和6年11月30日9時から加西市担当として、高倉理事役、志方理事役が計画した歴史ウォークとして加西市を探訪しました。まず最初に兵庫県立フラワーセンター駐車場に集合し、見学ルートなど計画の説明を受けた後にフラワーセンター内に入場して、ダリアの花が咲いている園内をひと回りしました。季節的には花が少ない時期でありましたが、温室に入ったところ、ランの花はきれいに咲いており、目の保養となりました。

フラワーセンター案内図



支部長挨拶



園内を散策する参加者



奇麗な花に癒される参加者



フラワーセンター内をひと回りした後に、センター内にある古代鏡展示館（兵庫県立考古博物館加西分室）に入館し、青銅の古代鏡、唐王朝の精華、合計150点がショーケースに飾られており、展示館の係りの方の説明を受けて見学を行いました。

この博物館は、加西市在住の美術品蒐集家 千石唯司氏所有のコレクションの受贈を契機とし、平成29年4月フラワーセンター内に開館しました。また、令和3年4月には新たな寄贈に伴い、新展示室を増築し、より多くの作品を鑑賞できるようになったとお聞きしました。

千石唯司氏の中国美術工芸品をコレクションとして平成26年には500点が兵庫県に寄贈され、その中枢をなすものは古代中国鏡です。二里头文化（夏の時代（約3700年前）から宋代（約1000年前）迄を網羅し、質・量とも充実し、極めて重要な資料です。

鏡は、虎の鏡・龍と虎を交互に表す獣帯鏡・向かい合う獅子と虎・虎がいない龍紋の鏡など、飽きることがない展示でした。

### 展示係の方による説明を受ける参加者①



## 展示係の方による説明を受ける参加者②



十分な時間を見学に費やし、そこから車で約10分程度のところにある旧の市街地（毎月最終土曜日にお店を開けて手芸や創作品のほか、飲食店で活気を取り戻そうと奮闘している地域で「北条c o n n e (こんね）」と呼ばれています。）に集合して昼食をとることとなりました。この昼食場所は、今回の計画担当者である高倉理事役と旧知の仲である女性で石橋和子様が「まちなか春陽堂」を経営されており、古民家的な雰囲気が漂う2階で鳥肉の炊込ご飯、加西おでん(豆腐や高野豆腐の代わりに卵焼きを入れている)、薬膳茶、最後にはサービスでコーヒーを頂き、全員お腹いっぱいとなり、大満足の1日となりました。昼食の最後に、お店側の紹介で加西市の名産品ダークホース（かぼちゃ）「やすえちファームの栽培品」を近くで販売されており、とても美味しいとの情報を頂き、昼食後にほとんどの会員が見に行き、8割程度の会員の方々が購入されました。もちろんその場所に石橋様もおられ、会員が購入する様子を楽しそうに見ておられました。何事にも一生懸命だな～と感ずることができる旧市街地、そこにいる方々の人柄、また、機会を見つけて足を運んでみたくなる雰囲気があり、応援したくなるひと時を手に入れることができました。

加西市探訪はこの昼食終了で解散となりましたが、数名の会員はその後、五

百羅漢が見学できる羅漢寺に徒歩で移動し、紅葉の景色に映える五百羅漢を堪能しました。

今回参加した皆さんを始め、隣町の良いところを知らなかったな～と思うことは多いと思います。支部が取り組む歴史ウォークとして、今後も背伸びすることなく身近にある良いところを紹介して心から感動できる一日を手に入れたいものです。

旧市街地散策中の参加者



「北条c o n n e (こんね)」にて昼食



「フラワーセンター」にて参加者による集合写真

